

エゾシロチョウ

春にサクラ，リンゴ，ズミなどバラ科樹木の新芽や若葉を食べるケムシ（幼虫）。最大長約40mm。背中黒く，茶色の縞が2本ある。体の下側は灰色。集団で枝上に糸を張りめぐらす。

しばしば多発し，木を丸坊主にすることがある。日本では北海道にのみ分布する白い蝶。



1. 中齢幼虫，体長15～18mm。1994/5/14.

美唄市，セイヨウナシ。



2. 終齢幼虫，体長27mm。2001/5/8.

美唄市，庭のクロミサンザシ。



3. 成虫。1999/6/21。美唄市，庭のクロミサンザシ上。



4. 幼虫の越冬巣。美唄市，庭のクロミサンザシ。

【学名】 *Aporia crataegi adherbal*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，シロチョウ科 (Pieridae)

【分布】 北海道；千島，サハリン，朝鮮半島。

【生態】

様々なバラ科樹木を加害する。

年1回発生。幼虫越冬。成虫は6月頃に出現。葉裏に数百個の卵をかためて産む。孵化した幼虫は集団で葉や枝上に糸を張り巡す。夏や秋の食害は幼虫が小さいためあまり目立たない。幼虫が1 cmぐらいのときに，巣の中で越冬に入る。早春から活動を始め，枝上に糸を張り巡らして新芽や若葉を食い荒らす。

5月末頃に枝上で集団で蛹になる。蛹は白く，黒い斑紋がある。10日ほどで成虫が羽化する。

发育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～	
幼虫（越冬）	+++	+++	+++	+++
幼虫（摂食・成長）		..	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	..		
蛹			..◇	◇◇..						
成虫・卵				..○○	○..					

【被害と防除】

海岸のズミやエゾノコリンゴ，庭のサクラやナシなどで多発することがある。多発生はたいてい1年で終わる。木を枯らした記録はないので，海岸林では多発しても防除は普通必要とされない。幼虫集団が大きいので，多発しなくても部分的に食害が目立つことがある。

晩秋から冬に枝に枯れ葉が残っている場合は，幼虫の巣なので取り除く。これが最も簡単で確実な防除方法である。被害は5月下旬から6月上旬頃に目につくようになるが，気づく頃にはたいてい枝上で蛹になっている。取り除いて駆除する。蝶の好きな人は少し残しておく。なお，蛹の近くに米粒大の黄色の繭が多数みられることがある。これはエゾシロチョウの天敵なので残す。

農業としては，庭木ではケムシ類用のレスメトリンのエアゾル（スプレー），サクラとバラではケムシ類用のピリメホスメチル乳剤，サクラではケムシ類（若～中齢幼虫）用のジフルベンズロン水和剤などがあるが，適用場所や適用樹種に限られる。なお，農業は取り扱い説明書にしたがって使用し，通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

作成中

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾシロチョウ cho/ezosiro/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/11.

1yochu.jpg, yochu2.jpg, seichu1.jpg, ettoso.jpg

「写真1～4」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1994-2001.